

基本と馬に対する慣れ

騎手の進歩のために大切なのは、基本と馬に慣れると言う事である。初めに、馬に慣れるということは一体どういうことだろうか。初心者にとっては、第一に馬に触るということで、手入れや馬装（装鞍、装鞍、厩舎作業）などを通じて馬に数多く接することがその最短距離である。これらの体験から馬に関する予備知識を得たり、馬の動作や性格や心理などを観察する事が出来る。それによって、馬という動物への理解と愛情もわいてくる。この事が、その後の騎乗時においても技術向上においても大変役立つ。毎日馬に乗っている私達のような者にとっても、こうした馬との接触で得たものは、騎乗に際してしばしば思いがけないヒントを与えてくれるものである。

騎乗時には、怖がらずに大いにリラックスして乗る事である。もし初心者が騎乗時に恐怖感をもっていれば、身体は硬直し拳は上がり、手綱を引っ張る事になり、一方で膝や踵も上がってバランスが乱れる。そのため馬は苦痛を感じ、前へ進まなくなったり、また敏感な馬は走り出してしまう。するとよけい騎手は不安になり、ますます身体を硬直させるという悪循環になる。だから最初は多少怖くても勇気を持って馬に乗り、早く馬の動きに慣れる事である。このことは、騎手が運動課目の練習を始める際にも言える。

よく鞍数を増やす事が技術向上に役立つと言うが、全くその通りである。鞍数を増やすというのは、何頭もの馬に乗って、それぞれの馬の性格および動きに慣れると言う事で、そのことが後日いかなる状況においても騎手が適確に馬の状態を判断し、かつ処置しうる基になるからである。

そしてこの鞍数に併せて大切な事は、ある一定の期間、焦らずじっくり乗ると言う事である。進歩というものは、正しい方法によってじっくり入念に行うことによって成り立つもので、頭では理解しているように思っても、実際には身体がそれに伴わず、また頭の中でも（十分には）理解できていないものだからである。自分の身体で体得して初めて頭でそのことが理解できるのであって、理論的にも肉体的にも、良く《感覚する》ことが大切である。それにはひとつの事を確実にを行うためには 他の多くのことを経験する事も大切である。

このことは、我々の日常生活においても同じことがいえるのではないだろうか。以前解らなかつたことが、後になって解ると言う事がよくある。つまり最初のときは目先の事だけが最大の問題で、他のことに気を向ける余裕がなかったのである。しかし、その後いろいろな経験を積んで再び同じ直面したとき、以前の経験を基にして考えることができ、そのときにはより冷静かつ確実な状況判断ができる。

馬に乗る場合もそれと同じである。数多くの馬に乗ってみると、それぞれの馬には多かれ少なかれ似たところ

があり、それまでの経験を生かすことが出来る。そうした経験と慣れによって、どんな馬でもある程度は乗りこなす事ができるようになる。そしてこれは馬術についても大切な事であるが、その人馬の動きがはたから見ていると快く感じられる場合には、騎手の姿やセンスが馬の動きによく調和しているのであり、多くの場合、それは騎手の長い経験と慣れからきているのである。

もうひとつ重要なのは、基本を大切にすることである。基本というものは、長い間の経験を基にして理論的に成り立ってきているものであり、かつ合理的なものである。だから騎手はこれを決して軽視してはならない。絶えず基本に忠実であるように心がけながら、巧みに状況を判断して、基本の上に自分の感性を生かした創意工夫をし、馬を最良の状態へ導く事である。

基本はすべてではなく、また一つの方法しかないというのではない。しかし暗中模索の状態でも練習しても、あまり効果はなく、初めはしっかりと基本的な騎乗法をマスターし、その中で自分自身の感覚の養成を行うべきである。そうすれば、同じ創意工夫でも道理にかなったことを行うことができ、馬をより御する事ができる。このような結果を得られたとき、騎手の技術は進歩し、感覚も良くなったことができる。

D S T コラムへのご質問・ご感想をお待ちしております。